

令和5年度こども家庭科学研究費補助金  
(成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業)  
分担研究報告書

全国調査の実施

研究代表者：石塚 一枝（国立成育医療研究センター社会医学研究部専門職）  
研究分担者：森崎 菜穂（国立成育医療研究センター社会医学研究部部長）  
研究協力者：オーレリー ピパーシェ（国立成育医療研究センター社会医学研究部  
研究員）  
研究協力者：須山 聡（北海道大学 児童思春期精神医学研究部門 特任助教）  
研究協力者：福屋 吉史（東邦大学 精神神経医学講座 助教）

**研究要旨**

**目的：**新型コロナウイルス感染症の流行及び感染症対策は、休校、学級閉鎖、行動制限など、こどもを取り巻く環境にさまざまな変化をもたらした。本研究では、新型コロナウイルス感染症の流行および感染症対策による、子どもの生活や環境への変化、およびそれによる子どもの心身の健康・成長発達への影響について検討する。

**方法：**R5年度は、乳幼児調査、学童期調査の2つの調査を実施した。乳幼児調査は、新型コロナウイルス流行中の2021年に出産・育児をしていた女性の縦断インターネット調査 The Japan COVID-19 and Society Internet Survey (JACSIS)により2023年に追跡調査を実施した。学童期調査は、2020年より開始している全国無作為抽出された全国の小中高生について、コロナ禍における生活等に係る調査の追加調査を実施した。

**結果：**乳幼児調査、学童期調査を実施し、2-4歳の乳幼児（母親回答）の研究参加者は、2397人、小5から中3の学童期（本人及び保護者回答）1995人から回答を得られた。学童期調査では、制限が緩和された後も子どもたちの孤独感は改善していないことが示唆された。

**結論：**次年度も引き続き調査を実施、子どもの生活や環境への変化、およびそれによる子どもの心身の健康・成長発達への影響について検討する。

**A. 研究目的**

本研究では、新型コロナウイルス感染症流行下等の社会的な環境変化が子どもの心身の発達等に及ぼす影響を把握する。

本件調査は、【調査1】乳幼児期にかかわる調査と、【調査2】学童期にかかわる調査の2つの調査から構成される。

**B. 方法**

**B-1：【調査1】乳幼児期に関わる調査方法**

コロナ禍で出産した女性の縦断インターネット調査 The Japan COVID-19 and Society

Internet Survey (JACSIS)のうち、2022年2月の追跡調査に参加している研究参加者(乳幼児がいる子どもの母親)に対して2023年8-10月に追跡調査を実施した。JACSISでは、父母の心身の健康・経済状況、養育、愛着、発達(自閉傾向)に関する情報を収集しているが、本研究はその後のフォローアップとして、子どもの発達、情緒・行動および予防接種状況など子どもの心身の健康に関する情報を追加し、コロナ禍での子どもの心身の健康への影響を検討した。

子どもの心身の健康状態は、こどもの情緒・行動を評価する心理尺度である子どもの強さと困難さアンケート(SDQ)を実施した。SDQは強みに関する下位尺度1つ(向社会的行動)と困難さに関する下位尺度4つ(情緒不安定、問題行動、多動・不注意、友人関係の問題)によって、子どもの適応と精神的健康の状態を包括的に把握するための質問紙である<sup>1)</sup>。東京都医師会「5歳児健診マニュアル」にて、下位尺度別、および総合スコアについて、支援の必要性を「Low Need(ほとんどない)」「Some Need(ややある)」「High Need(おおいにある)」の3段階で評価した。

## B-2: 【調査2】学童期に関わる調査方法

全国無作為抽出された小中学生を対象に、コロナ禍での子どもの精神的不調(うつ等)とその要因である家庭の環境(経済状況、養育等)、孤立、レジリエンス、休校等について質問票郵送による縦断調査研究を実施している。この調査のデータを分析し、コロナ禍での子どものうつに影響を及ぼす要因を検討した。さらに、行動自粛などコロナ禍における感染対策が緩和した前後の心身の健康の状態を把握するため、本年度も継続調査を実施した。

## 1. 子どもの健康状態

### 1) 身体症状

学童期では、精神的不調のサインとして、腹痛、頭痛などの身体症状が現れることが多い。そのため、本研究では、学童期の世界的調査であるWHO HBSC survey で用いた項目を参考に、学童期で多い身体症状について評価した<sup>2)</sup>。

### 2) 抑うつ

新型コロナウイルス流行中に思春期年齢で増加が懸念されている抑うつについて評価した。抑うつの評価には、Patient Health Questionnaire for Adolescents (PHQ-A) 日本語版を用いた<sup>3,4)</sup>。思春期のこどもを対象とした抑うつの重症度尺度である。過去7日間について、9項目の質問に対して4段階(全くない:0点、数日:1点、半分以上:2点、ほとんど毎日:3点)で尋ね、点数化する。総合点は0から27点で、点が高いほどより重度のうつ症状が示唆される。

### 3) インターネット依存

新型コロナウイルス流行中に利用が加速したインターネット使用に伴い、問題のあるインターネットの使用(インターネット依存のリスクがある状態)を把握するため、インターネット依存スクリーニングテスト診断質問票(DQ)を用いた。DQは、8つの質問に対して「はい」(1点)、「いいえ」(0点)で尋ね、合計点を算出する。8項目のうち、5項目以上が該当する場合、インターネット依存のリスクがあると評価されている(カットオフ5点)<sup>5)</sup>。

## C. 結果

### C-1: 【結果1】乳幼児期に関わる調査結果

2-4歳の乳幼児の母親2397人から回答を得た。SDQでみたこどもの総合的困難さは、支援ニーズが「大いにある」「ややある」は45%であった。今回調査における「総合的困難さ」

および、下位サブスケールの「行為の問題」「多動・不注意」「仲間関係の問題」の値は、新型コロナウイルス流行前の日本の平均的な SDQ 値よりも高く、課題、支援の必要性が増していることが疑われた。また、下位指標のうち、強みを示す「向社会的な行動」においては、日本の平均値を下回っていた。

#### C-2：【結果 2】学童調査結果

小学 5 年生～高校 2 年生のこども 3367 名およびその保護者に質問票による郵送調査を実施した。結果、こども 1928 名、保護者 1991 名から回答が得られた。こどものうつは、PHQ-A 中等度以上(10 点以上)は、全学年で見ると、2021 年は 11.4%、2022 年は 13.3%、2023 年は 13.3%であった。

インターネット依存スクリーニングテストによる合計点が「病的使用者」と「不適応使用者」となった子どもの割合は、51.3%であった。2022 年の 48.3%から 3 ポイント上昇している傾向であった。

さらに、コロナ禍で課題となったメンタルヘルスに関する課題についてのリスク因子の分析を実施した。その結果、問題のあるインターネットを使用しているこどもは抑うつのリスクが高いことが示唆された。また、孤独感や自傷のリスクを上げることが示唆された。これらの結果は、学術集会で発表を行った。現在学術雑誌に投稿中である。

#### D. 考察

新型コロナウイルスパンデミックの行動制限下で、人々は厳しい行動制限を受け、社会との交流が限定されてしまう状況があった。

しかし、パンデミックが沈静化して行動制限が緩和されたにも関わらず、子どもたちの心身の健康が改善されたとはいえない。

次年度は乳幼児と学童期の行動・情緒や社会的発達の背景因子を含めた子どもへの影響に関してさらに分析を進めていく予定である。

#### E. 結論

新型コロナパンデミックで変化した生活習慣は、行動制限の緩和に伴って、心身の健康が回復したとはいえ、今後も注視が必要であることが示唆された。次年度も引き続き調査・分析を実施する予定である。

#### 参考文献

- 1) Haugland S, Wold B. Subjective health complaints in adolescence--reliability and validity of survey methods. *J Adolesc.* 2001;24(5):611-624. doi:10.1006/jado.2000.0393
- 2) Kaneita Y, Kanda H, Ohida T, Higuchi S. Internet use and problematic Internet use among adolescents in Japan: A nationwide representative survey. *Mihara S, Osaki Y, Nakayama H, Sakuma H, Ikeda M, Itani O, Addict Behav Rep.* 2016 Oct 15;4:58-64. doi: 10.1016/j.abrep.2016.10.001. eCollection 2016 Dec.
- 3) Johnson JG, Harris ES, Spitzer RL, Williams JB. The patient health questionnaire for adolescents: validation of an instrument for the assessment of mental disorders among adolescent primary care patients. *J Adolesc Health.* 2002;30(3):196-204. doi:10.1016/s1054-139x(01)00333-0
- 4) Adachi M, Takahashi M, Hirota T, et al. Distributional patterns of item responses and total scores of the Patient Health

Questionnaire for Adolescents in a general population sample of adolescents in Japan. *Psychiatry Clin Neurosci.* 2020;74(11):628-629. doi:10.1111/pcn.13148

- 5) Goodman, R., Meltzer, H., & Bailey, V. (2003). The Strengths and Difficulties Questionnaire: A pilot study on the validity of the self-report version. *International Review of Psychiatry*, 15(1-2), 173-177.

**F. 健康危険情報**

該当なし

**G. 研究発表**

**H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)**

該当なし

## 乳幼児調査

- SDQ (Strength and Difficulties Questionnaire : 子どもの強さと困難さアンケート)  
2歳以上5歳未満の子どもを持つ人が対象です。該当するお子さんが複数いる場合は、一番年齢が低いお子さんについてお答えください。お子さまのここ半年くらいの行動についてお答えください。以下のそれぞれの質問項目について、あてはまらない、まああてはまる、あてはまる、のいずれかを選んでください。答えに自信がなくても、あるいは、その質問がばからしいと思えたとしても、全部の質問に答えてください。



図 5 SDQ スコアの日本平均 SDQ<sup>1</sup>との比較

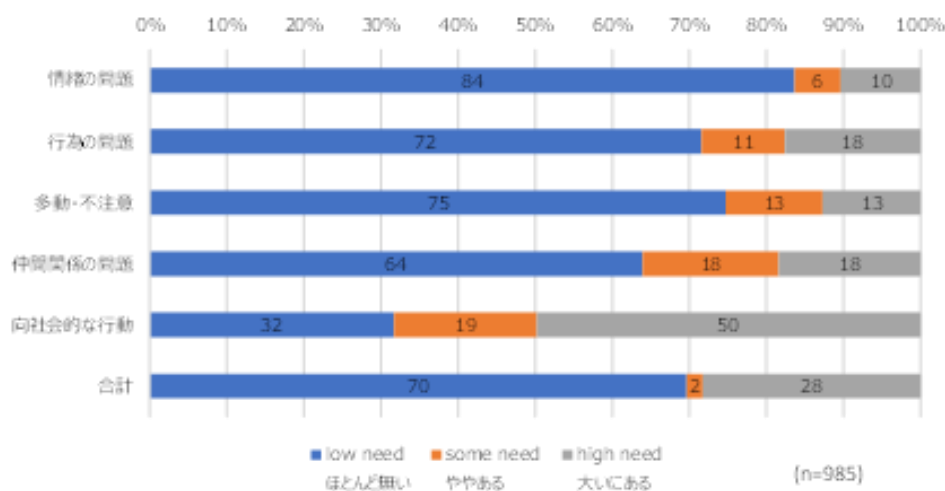


図 6 SDQ スコア

# 学童期調査結果

## 1. 子どもの心身の健康

### 【身体症状】

- この半年間、次の症状はありましたか？もっとも近いものに○をつけて下さい。（○はそれぞれ1つずつ）

#### ① あたまが痛い

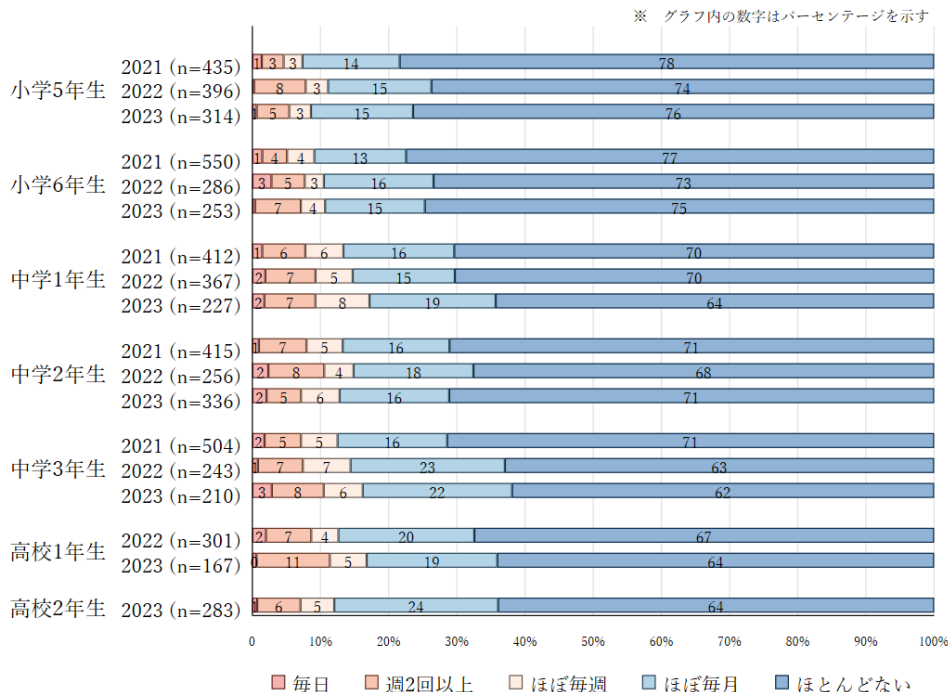


図 7 こどもの身体症状-①あたまが痛い

#### ② おなかが痛い

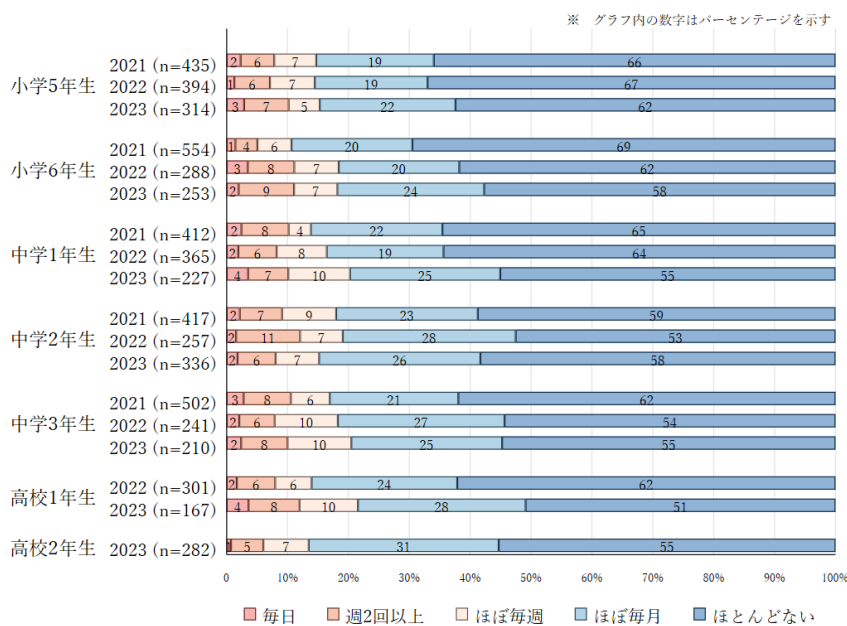


図 8 こどもの身体症状-②おなかが痛い

### ③ 腰が痛い

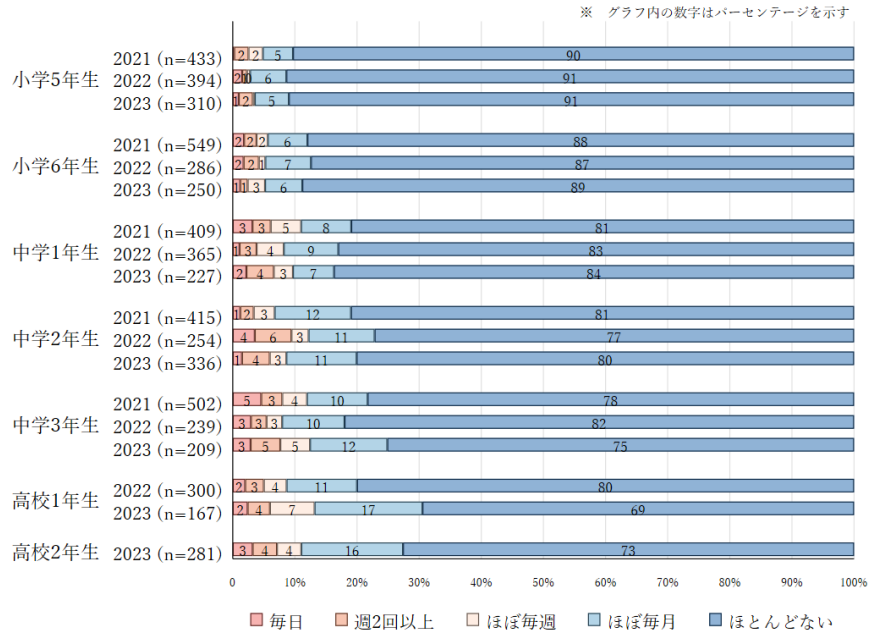


図 9 こどもの身体症状-③腰が痛い

### ④ めまいがする

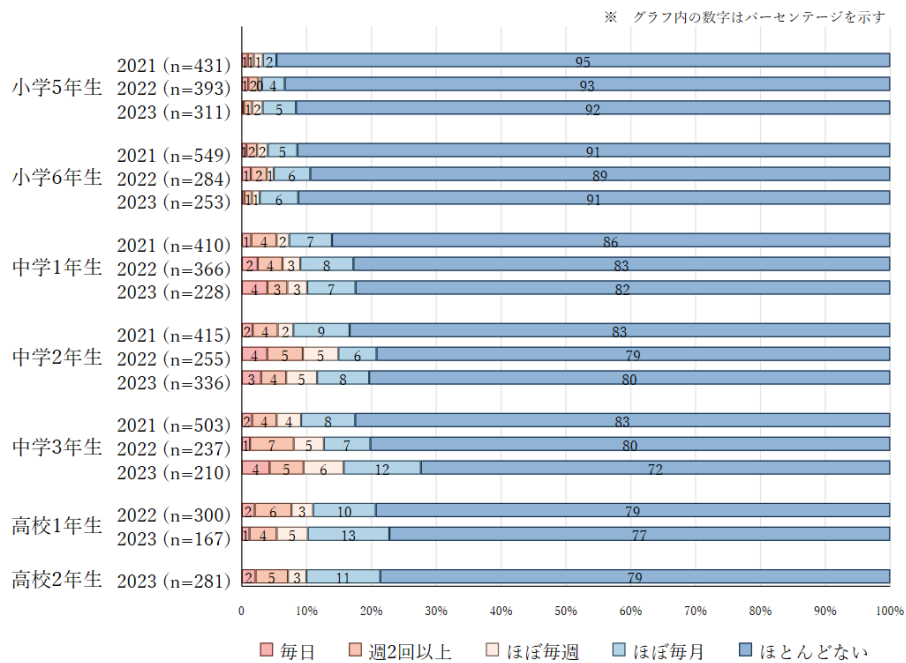


図 10 こどもの身体症状-④めまいがする

・ 抑うつ傾向 (PHQ-A)

こどもには、質問項目 (1) から (9) までは、思春期のこどもを対象としたうつ症状の重症度尺度である Patient Health Questionnaire for Adolescents (PHQ-A) 日本語版を用いて、こころの状態を尋ねた。

過去 7 日間について、9 項目の質問に対して 4 段階 (全くない: 0 点、数日: 1 点、半分以上: 2 点、ほとんど毎日: 3 点) で尋ね、点数化した。総合点は 0 から 27 点で、点が高いほどより重度のうつ症状が示唆される。

総合点

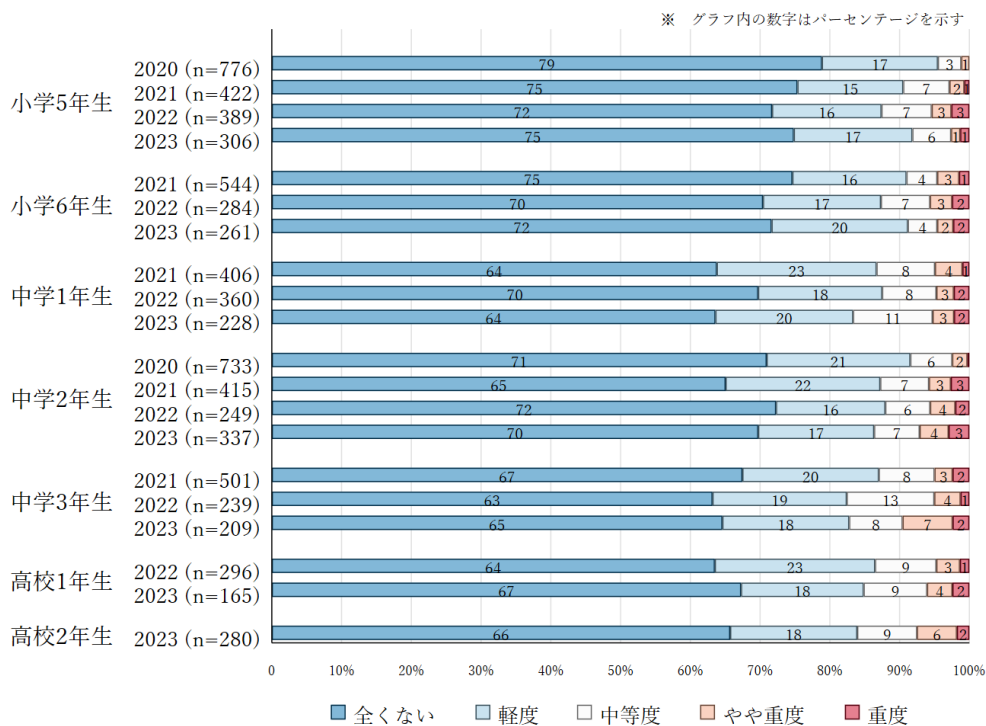


図 11 こどもの身体症状-総合点



- この7日間、次のような問題にどのくらい頻繁（ひんばん）に悩まされていますか？それぞれの症状に対し、あなたの気持ちにもっとも近いものに○をつけてください。

(1) 気分が落ち込む、ゆううつになる、いらいらする、または絶望的な気持ちになる

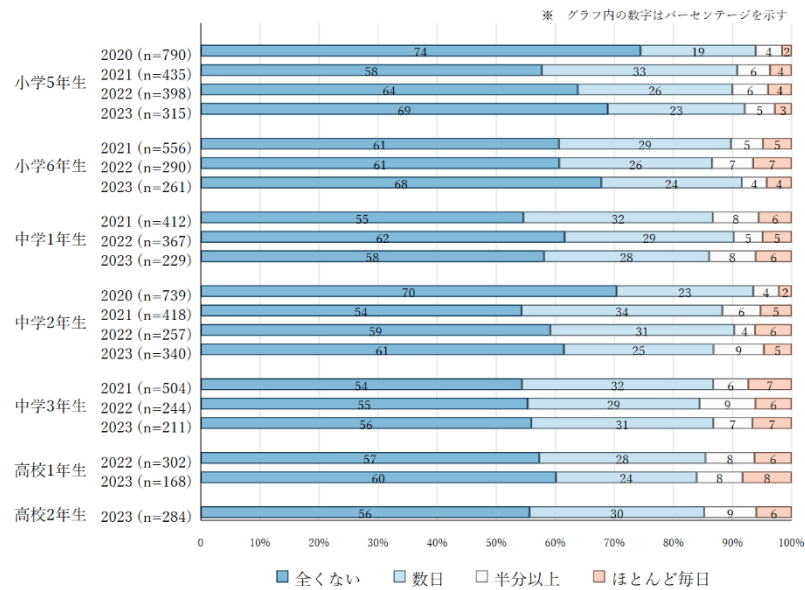


図 12 PHQ-9①気分が落ち込む

(2) 物事に対してほとんど興味がない、または楽しめない

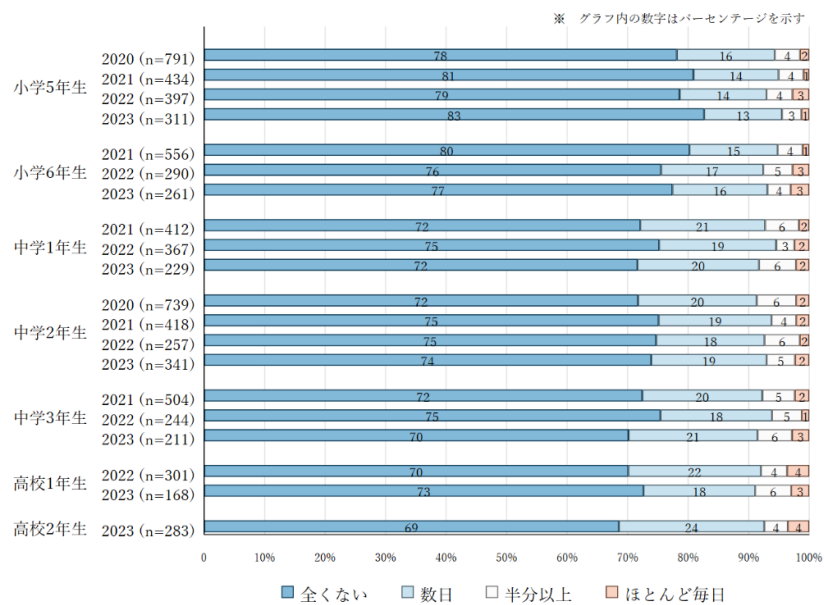


図 13 PHQ-9②物事に対してほとんど興味がない

(3) 寝つきが悪い、途中で目が覚める、または逆に眠りすぎる

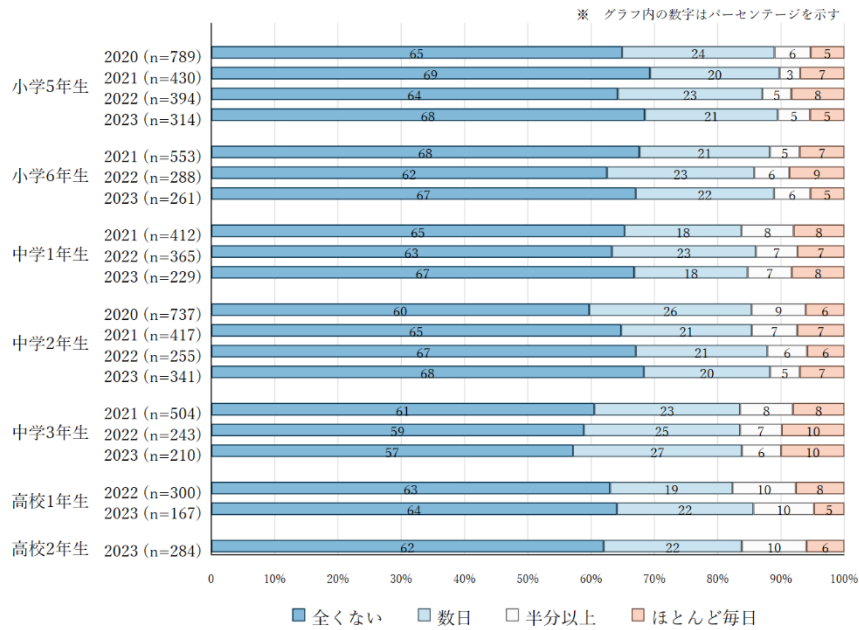


図 14 PHQ-9③寝つきが悪い

(4) あまり食欲がない、体重が減る、または食べすぎる

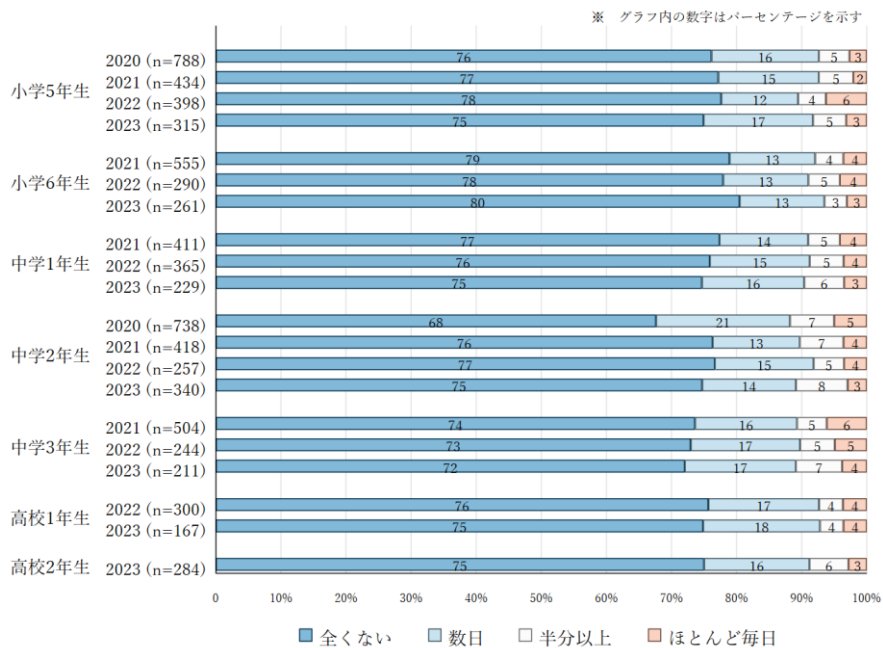


図 15 PHQ-9④あまり食欲がない

(5) 疲れた感じがする、または気力がない

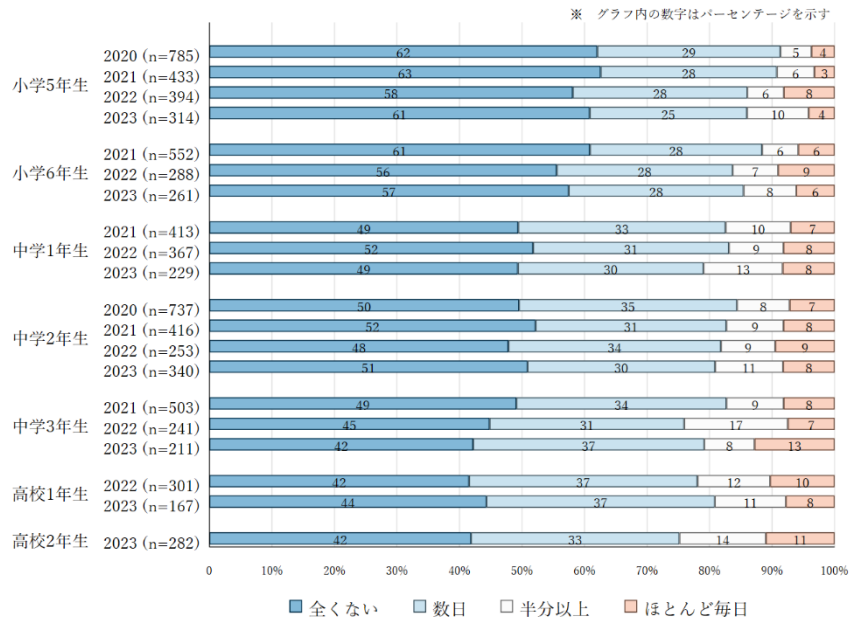


図 16 PHQ-9⑤疲れた感じがする

(6) 自分はダメな人間または失敗者だと感じる、または自分自身あるいは家族をがっかりさせていると思う

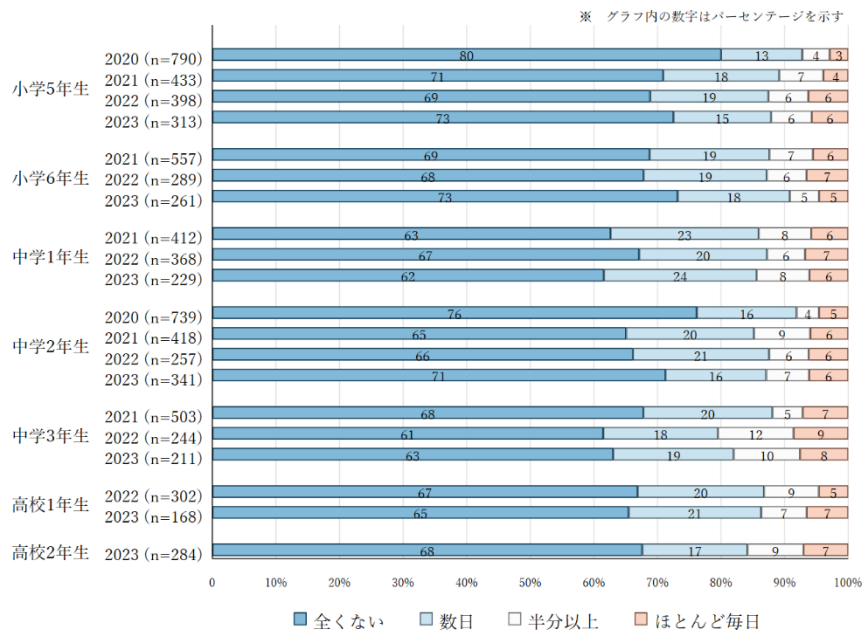


図 17 PHQ-9⑥自分はダメな人間または失敗者だと感じる

(7) 学校の勉強、読書、またはテレビを見ることなどに集中するのが難しい

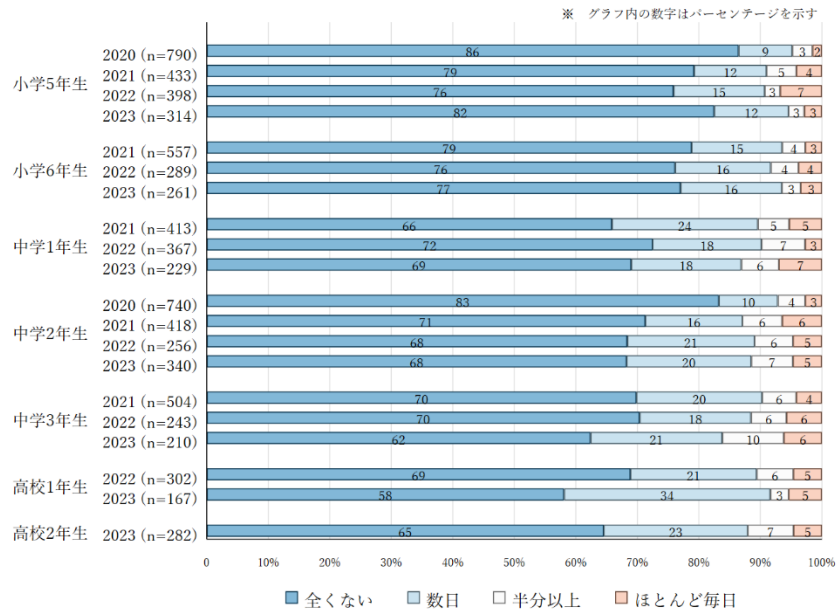


図 18 PHQ-9⑦学校の勉強等に集中するのが難しい

(8) 他人が気づくくらいに動きや話し方が遅（おそ）くなる、あるいはこれと反対に、そわそわしたり、落ち着かず、普段（ふだん）よりも動き回ることがある

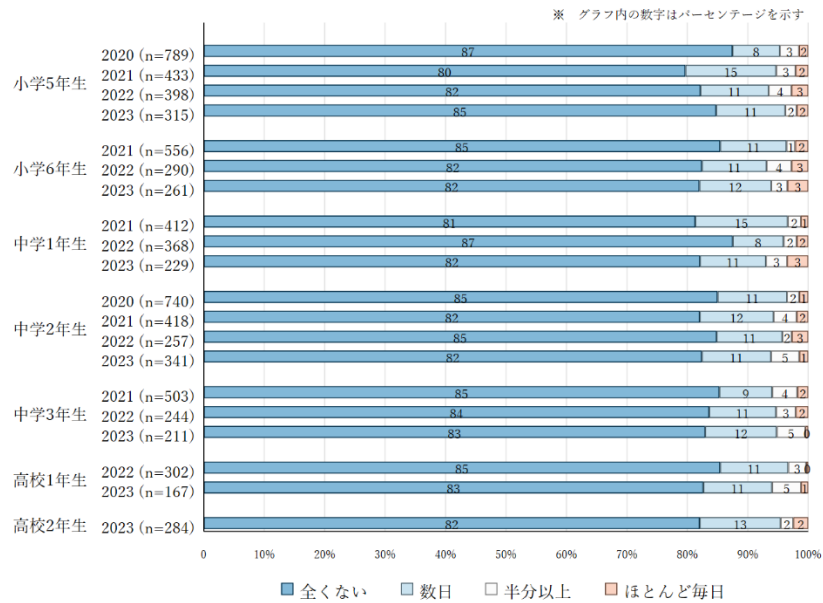


図 19 PHQ-9⑧動きや話し方が遅くなる、あるいは普段より動き回る

(9) 死んだ方がいい、または自分を何らかの方法で傷つけようと思ったことがある

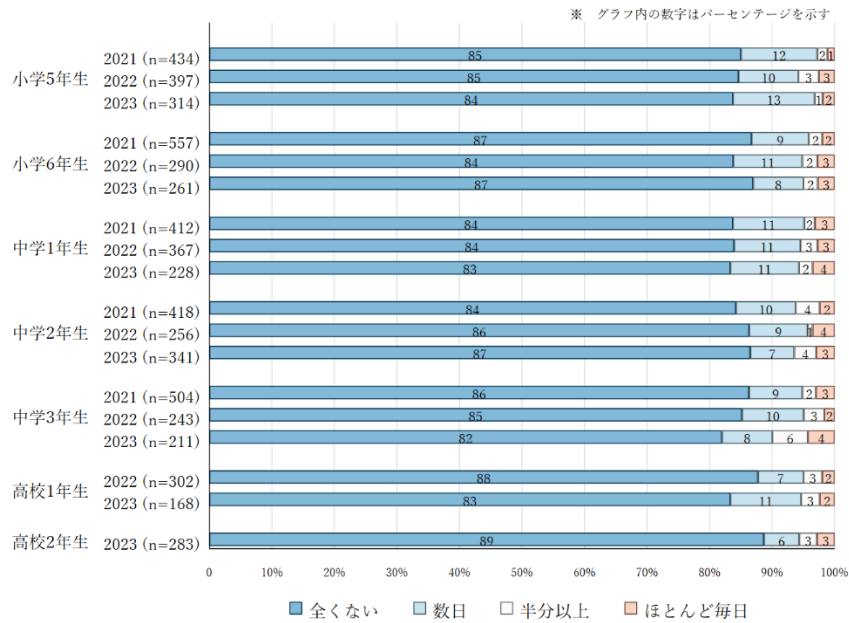


図 20 PHQ-9⑨死んだ方がいい、自分を傷つけようとおもったことがある

以上 (1) ~ (9) が PHQ-A の項目、(10) はオリジナルの質問項目。

(10) 実際に、自分のからだを傷つけたこと (かみの毛を抜く、自分をたたくなど) がある

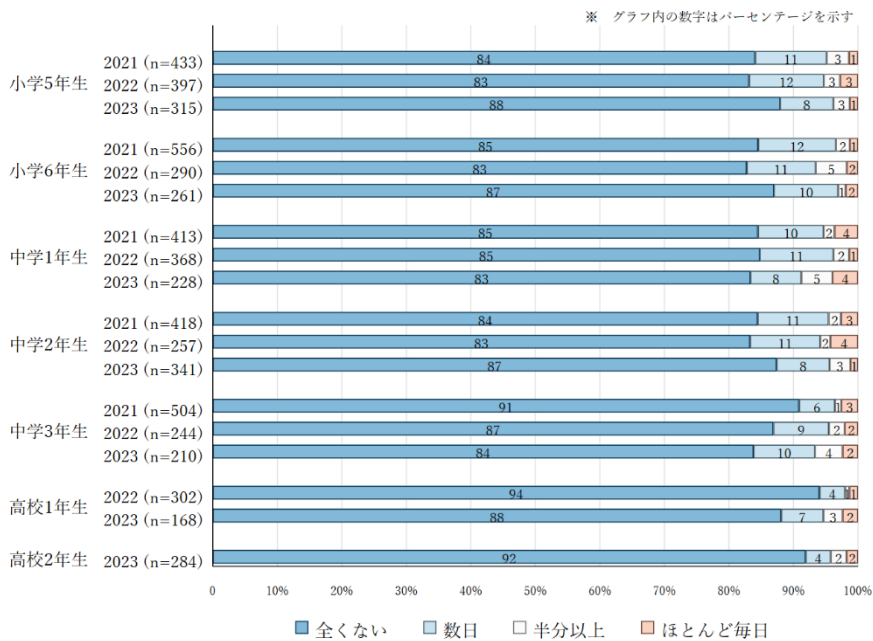


図 21 自分を傷つけた経験

## インターネット依存(2022-2023)

### こども

Young Diagnostic Questionnaire for Internet Addiction (YDQ)\*を用いて、こどものインターネットへの依存について尋ねた。

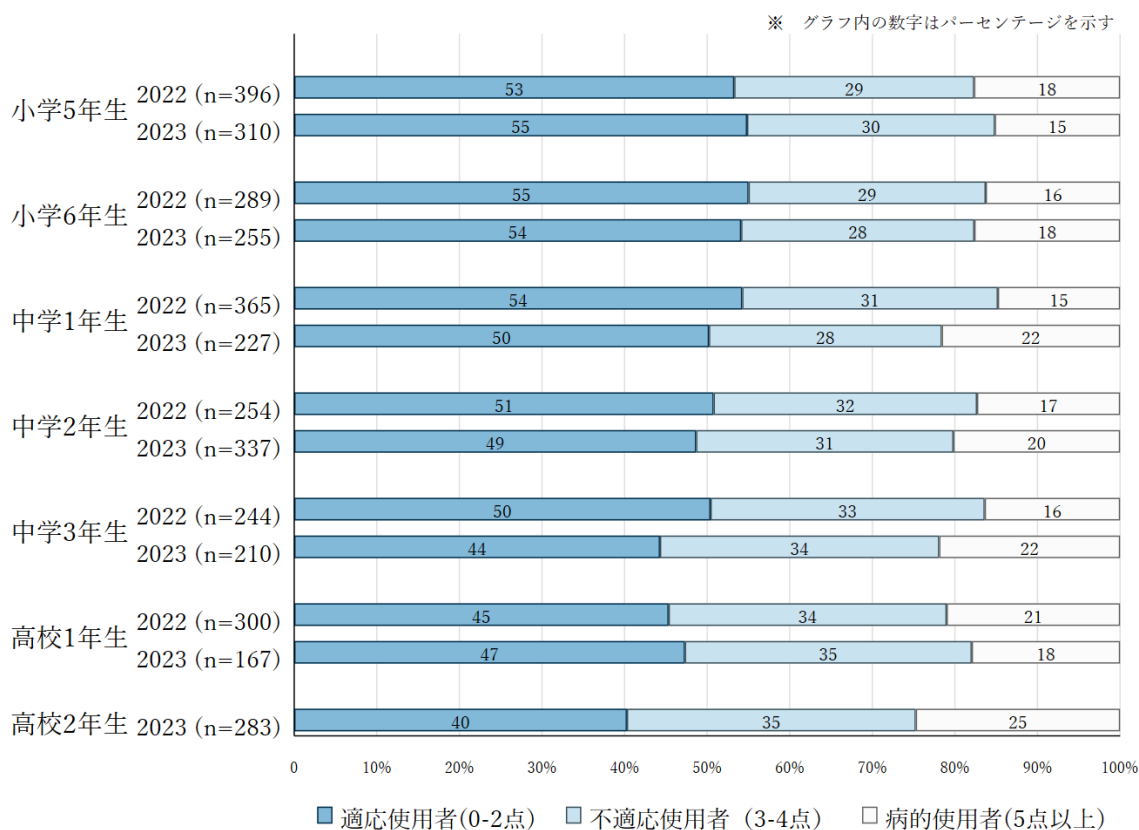


図 22 インターネット依存の状況

・「不適応使用者」と「病的使用者」の割合は、2022年は全体の48.3%、2023年は全体の51.3%であった。

### ※Young Diagnostic Questionnaire for Internet Addiction

以下の8項目の質問に対して、はい(1点)・いいえ(0点)で尋ね、合計点を算出している。

- ・あなたはインターネットに夢中になっていると感じていますか？(たとえば、前回にインターネットでしたことを考えたり、次回インターネットをすることを待ち望んでいた、など)
- ・あなたは、満足を与えるために、インターネットを使う時間をだんだん長くしていかなければならないと感じていますか？
- ・あなたは、インターネット使用を制限したり、時間を減らしたり、完全にやめようとしたが、うまくいかなかったことがたびたびありましたか？
- ・インターネットの使用時間を短くしたり、完全にやめようとした時、落ち着かなかったり、不機嫌や落ち込み、またはイライラなどを感じましたか？
- ・あなたは、使いはじめに意図したよりも長い時間インターネットを接続した状態でいますか？

- ・ あなたは、インターネットのために大切な人間関係、学校のことや、部活動のことを台無しにしたり、あやうくするようなことがありましたか？
- ・ あなたは、インターネットへの熱中のしすぎをかくすために、家族、学校の先生やその他の人たちにうそをついたことがありましたか？
- ・ あなたは、問題から逃げるために、または、絶望的な気持ち、罪悪感、不安、落ち込みなどといったいやな気持ちから逃げるために、インターネットを使いますか？